

2011年3月19日 JTJ 宣教神学校卒業式メッセージ

「赦しと回復の宣教」＜恵みの水源は開かれて＞

聖書箇所：ルカによる福音書5：17-26

- 17：ある日の事、イエスが教えておられると、パリサイ人と律法の教師たちも、そこにすわっていた。彼らはガリラヤとユダヤのすべての村々や、エルサレムから来ていた。イエスは、主のみ力を持って、病気を治しておられた。
- 18：するとそこに、男たちが、中風をわずらっている人を、床のままで運んできた。そして、何とかして家の中に運び込み、イエスの前に置こうとしていた。
- 19：しかし、大ぜい人がいて、どうにも病人を運び込む方法が見つからないので、屋上に上って屋根の瓦をはがし、そこから彼の寝床を、ちょうど人々の真ん中のイエスの前につり降ろした。
- 20：彼らの信仰を見て、イエスは「友よ。あなたの罪は赦されました」と言われた。
- 21：ところが、律法学者、パリサイ人たちは、理屈を言い始めた。「神をけがすことを言うこの人は、いったい何者だ。神のほかに、だれが罪を赦すことができよう。」
- 22：その理屈を見抜いておられたイエスは、彼らに言われた。「なぜ、心の中でそんな理屈を言っているのか。」
- 23：『あなたの罪は赦された』と言うのと、『起きて歩け』というのと、どちらがやさしいか。
- 24：人の子が地上で罪を赦す権威を持っていることを、あなた方に悟らせるために」と言って、中風の人に、「あなたに命じる。起きなさい。寝床をたたんで、家に帰りなさい」と言われた。
- 25：すると彼は、たちどころに人々の前で立ち上がり、寝ていた床をたたんで、神をあがめながら自分の家に帰った。
- 26：人々はみな、ひどく驚き、神をあがめ、恐れに満たされて、「私たちは、きょう、驚くべきことを見た」と言った。

3つのポイント：

- (1) キリストの心を持って愛の共同作業をなせ
- (2) 十字架による赦しと回復を力強く宣言せよ
- (3) 本来あるべき人間関係にもどれ

メッセージ骨子：

＜序論＞ わたしは大学生の時、ノンクリスチャンとして中国に留学し、そこで「家の教会」に導かれました。そこで出会った地下教会のリーダー袁さんの、命を懸けた宣教の情熱をみて心を打たれ、帰国後その姿を忘れることができず教会に行きはじめたのが、私の救いのきっかけでした。さて、袁さんしかり、戦時中の牧師たちしかり、彼らは周りの圧

迫や死の恐怖をもともせず戦いましたが、その力の背景になったのは、「見よ、私は世の終わりまで、いつもあなた方とともにいる。」という、イエス様の励ましでした。「見よ」とは、主の栄光を見よという意味ですが、その栄光はいったいどのような時に表されるのでしょうか？

＜ポイント1＞主の栄光は「キリストの心を持って愛の共同作業をなす時」に表される。4人の男たちは屋根に大きな穴をあけてまでして中風の友人をイエス様の前につり降ろしました。その友人を何とか癒してもらいたかったからです。20節、「彼らの信仰をみて」とあります。イエス様が見られたのは、5人の信仰でした。日本のクリスチャン人口は1%以下、一見孤軍奮闘のようですが、私たちの宣教は共同作業です。パウロも「恐れなくて語り続けなさい。この町には私の民がたくさんいるから」と主からの励ましを受けて燃えましたが、私の JTJ 在学中、同級生と共に奉仕した時の感動、あの時私たちの心に燃えたのは、主のよるこびでした。卒業後も、我々は心の手を取り合って祈り合う仲間でありたいと願います。そしてその時、主が動かれ奇跡が起こると信じます。

＜ポイント2＞主の栄光は「十字架による赦しと回復を宣言するとき」に表される。民衆は癒しの奇跡を目当てに集まっていますが、罪の赦しだけを宣言されたイエス様に対して不満を覚えます。一方で律法学者たちは、神を冒瀆するものとしてイエス様を糾弾します。20節から24で節は、罪の赦し先か、体の癒し先かの激しい議論が展開されていますが、イエス様の、罪の赦しの宣言に続く「起きて寝床をたたため」との命令で決着がつきます。「起きよ」とは現状から立ち上がって歩み出せ、「寝床をたたため」とは自分が依存していたものを取っ払え。十字架によって開かれた天の水門、そこから流れ出る恵みの力があるからこそ、私たちは立ち上がることができるのです。

＜ポイント3＞主の栄光は「本来あるべき人間関係に戻るとき」に表される。「自分の家に帰れ」という命令は本来あるべき人間関係、家族関係に戻れという意味です。今ある人間関係を喜び楽しむことが、伝道の基本ではないでしょうか。思えば私の子供時代の我が家には争いが絶えませんでした。それと比べて、今の「いつくしみと恵みが追いかけてくる」（詩篇23篇）家庭は、まさに一方的な主の恵みであり、これこそが伝道メッセージなのではないでしょうか。ですから主よ、私は命ある限り、あなたの家に住まい続けます。

＜まとめ＞今の時代は、我が国日本は、まさに置き去りにされた半身不随の人ではないかと思えます。人も、家庭も、団体も、国も皆傷ついている。この重病人はイエス様という名医を必要としています。Jesus to Japan, Japan to Jesus 彼らをイエス様に引き合わせる4人の友達に、私たちもならせていただこうではありませんか。